

国 語

1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	人数	650人	
	人数	%	
100	0	0.0	
90～99	15	2.3	
80～89	81	12.5	
70～79	162	24.9	
60～69	154	23.7	
50～59	122	18.8	
40～49	78	12.0	
30～39	30	4.6	
20～29	6	0.9	
10～19	2	0.3	
1～9	0	0.0	
0	0	0.0	

*合格者の中から、無作為に抽出した650人(13.0%)の結果である。

*%の数値は、小数点第2位を四捨五入したものである。

〈表2〉小問別正答率(%)

大問	小問	正答率
一	問一	㉑ 99.7
		㉒ 98.0
		㉓ 97.2
	問二	89.7
	問三	71.5
	問四	50.6
	問五	A 47.3
		B 56.8
	問六	50.2
	小計	
二	問一	㉑ 97.7
		㉒ 75.8
		㉓ 76.2
	問二	29.8
	問三	81.8
	問四	71.1
	問五	58.0
問六	56.2	
小計		65.3

大問	小問	正答率
三	問一	94.5
	問二	72.6
	問三	84.5
	問四	61.0
	問五	49.7
	問六	90.7
小計		69.2
四	問一	68.6
	問二	80.7
	問三	34.3
	問四	66.2
	問五	50.9
	問六	43.4
小計		52.0

〈表3〉大問別の正答率の経年比較

大問	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
一 文学的文章	62.0	62.0	64.3	68.8	67.2
二 説明的文章	52.9	50.3	62.8	57.4	65.3
三 言語活動	67.6	38.4	42.0	49.2	69.2
四 古典	45.4	59.4	51.2	58.9	52.0

2 分析結果の概要

合格者の国語の平均点^(※)は、62.7点で、昨年度と比べ上昇した(昨年度58.2点)。

(※)平均点は全日制すべての合格者5,010人のものである。

〈表1〉について、70点以上の人数は全体の39.7%で、昨年度に比べ増加した(昨年度26.4%)。40点未満の人数は全体の5.8%で、昨年度に比べ減少した(昨年度9.4%)。70点～79点を中心として、ほぼ正規分布となっている。

〈表2〉について、正答率80%以上の問題数は8問で、基礎的・基本的な言語事項を問う問題の正答率が高かった。具体的には、漢字の読み書き(一の問一、二の問一)、語句の文脈上の意味(一の問二)、敬語のきまり(三の問一)、文語のきまり(四の問二)などである。正答率40%未満の問題数は2問で、本文の叙述に即して的確に読み取る問題の正答率が低かった。具体的には、指示語の指示内容をとらえる問題(二の問二)、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の思いを想像する問題(四の問三)などである。

〈表3〉について、二の説明的文章を正確に理解してまとめる問題、三の文章や資料を活用して自分の考えをまとめる問題の正答率は、昨年度より高かった。一方、一の文学的文章を表現に即して読み味わう問題、四の古文と漢文を読み比べて内容をまとめる問題等の正答率は、昨年度より低かった。

3 標準解答及び大問ごとのねらい

㊦ 〈標準解答〉

問一	㉑ ふる ㉒ あやま ㉓ 忘
問二	ウ
問三	イ
問四	エ
問五	A (例) お父さんの発言をさえぎるため思いがけず言った B (例) おばあちゃんを応援するため自分を奮い立たせて言った
問六	ア

〈ねらい〉

夜間中学へ通うおばあちゃんと家族の交流を描いた素材を通して、登場人物の心情や言動の意味を考える力、人物設定の仕方をとらえる力、文章の表現の仕方について評価する力等の基礎的・基本的な知識・技能をみる。

㊦ 〈標準解答〉

問一	㉑ 保存 ㉒ ふよ ㉓ 従
問二	ア
問三	(例) 食事を困んで仲良く食事をする
問四	(例) これまで食事によって育ててきた私たちの共感能力や連帯能力が低下し、サル社会に似た個人主義の閉鎖的な社会になってしまう。
問五	ウ
問六	エ

〈ねらい〉

人間の食文化をサル社会と比較して述べた素材や「和食」に関する関連資料を通して、文章の中心部分と付加的な部分を読み分けて要旨をとらえる力、文章の構成や展開について評価する力等の基礎的・基本的な知識・技能をみる。また、目的に応じて文章を読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりする思考力・判断力・表現力等もみる。

㊦ 〈標準解答〉

問一	(例) 伺いたい
問二	イ
問三	エ
問四	(例) 青年期特有の『潔癖感』『完璧主義』が強く、政党や候補者のことがよくわからないと投票に行かないのだ
問五	(例) それは、友達や家族と政治的な課題や候補者の考えについて自由に話し合うことです。そうすれば、自分の考えがしだいはっきりしてきます。
問六	ア

〈ねらい〉

「十八歳選挙権」について調べたことをまとめ、文化祭で発表する場面を通して、社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集める力、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用する力、説明や具体例を加えて説得力のある文章を書く力等の思考力・判断力・表現力等をみる。

四 〈標準解答〉

問一	ウ
問二	過 _二 五 溪 _一
問三	イ
問四	いみじゅう
問五	エ
問五	(例) 初音を聞く

〈ねらい〉

「ほととぎす」が登場する古文と漢文の比較を通して、文語のきまりや訓読の仕方、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の思いなどを想像する力等の基礎的・基本的な知識・技能をみる。また、歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむための思考力・判断力・表現力等もみる。

4 小問ごとの内容及びねらい

大問	小問	内容	出題のねらい	出題形式			評価の観点				正答率	
				選択	短答	記述	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識理解		
二	一	文学的文章	文脈に即して漢字を正しく読み書きすることができる。		○					●	①99.7 ②98.0 ③97.2	
	二		文脈の中における語句の意味を的確にとらえ理解することができる。	○					●	●	89.7	
	三		登場人物の心情に注意して読み、内容の理解に役立てることができる。	○						●		71.5
	四		登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てることができる。	○						●		50.6
	五		登場人物の言動の意味を考え、内容の理解に役立てることができる。			○				●		A47.3 B56.8
	六		文章の構成や展開、表現の仕方について評価することができる。	○						●		50.2
三	一	説明的文章	文脈に即して漢字を正しく読み書きすることができる。		○					●	①97.7 ②75.8 ③76.2	
	二		文脈の中における語句の意味を的確にとらえ理解することができる。	○					●		29.8	
	三		文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け、要旨をとらえることができる。			○				●		81.8
	四		文章の構成や展開について、根拠を明確にして自分の考えをまとめることができる。			○				●		71.1
	五		文章の構成や展開、表現の仕方について評価することができる。	○						●		58.0
	六		目的に応じて文章を読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりすることができる。	○						●		56.2
三	一	言語活動	相手や場に応じた言葉遣いについて知識を生かして話すことができる。		○		●			●	94.5	
	二		必要に応じて質問しながら聞き取り、整理することができる。	○			●				72.6	
	三		社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめることができる。	○				●				84.5
	四		論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くことができる。			○		●				61.0
	五		事柄や意見が相手に効果的に伝わるように説明や具体例を加えて書くことができる。			○		●				49.7
	六		字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くことができる。	○						●		90.7
四	一	古典	古典には様々な種類の作品があることを理解することができる。	○						●	68.6	
	二		訓読の仕方を知り、古典の世界に触れることができる。		○					●	80.7	
	三		古典に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の思いなどを想像することができる。	○						●		34.3
	四		文語のきまりを知り、古典の世界に触れることができる。		○					●		66.2
	五		古典に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の思いなどを想像することができる。	○						●		50.9
	六		歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむことができる。		○					●		43.4